

第2回 箱根町子ども・子育て会議 議事録要旨

1 開会

～事務局からの挨拶～

- ・第1回の会議内容については、町ホームページ「子育てするなら箱根町」に掲載

2 会長挨拶

～会長からの挨拶～

- ・待機児童について箱根町はゼロ
- ・保護者が自分の子育てに合う園を選ぶことが出来、子どもの成長にあった時期に園に入ることができる環境
- ・昨年の出生数は56人（7園で割ると1園8人）
- ・箱根中学校のPTA総会の会員数が201家庭（この6年で100家庭減った）
- ・ニーズ結果の内容を踏まえ、町の計画を策定していくが、活発なご意見をいただきながら会議を進めていきたい。

～事務局から委員と事務局の紹介～

3 議題

（1）子ども・子育て新制度、箱根町子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果の概要について（資料1）

～事務局からの資料1についての説明～

～質疑応答・意見交換～

委員 回収率が53.5%、約半数の方が回答されたというだが、子どもの数が少ないため、1人あたりの%が高く、結果の捉え方も難しいと思いますが、内容について質問のある方は挙手を願いたい。

委員 小学生の保護者の回答で、放課後に自由に遊べる場を求めていることについて、具体的にはどのようなことか。

事務局 小学生になると、保護者が放課後に求めることとして「習い事・勉強」といった居場所を求める意見があった一方で、自由に遊べる場所や機会を求めているという意見があった。

子どもだけで遊べる場所、室内・屋外問わず、近所に同年代の子どもがいなことからこそ触れ合える場所を求めていると回答している方もいる。具体的には小田原の「マロニエ」といったような具体例をあげた回答もある。

また、現状の放課後児童クラブについて、具体的なプログラムや内容を盛り込んでほしいという内容や、現在は箱根町に無い場所（屋内屋外）で、子どもが自由にその場所にいけば同年代の子どもたちと触れ合える場所を求めている

意見があった。

委員 これは主観だが、親の考えと子どもたちの現状がかなり違っているような気がする。親は子どもたちが遊ぶ場を欲しがっているが、実際には放課後に学校にきて、子どもたちが集まって何をしているかというゲームをしている。その辺りの親の認識が違っていると感じる。子ども同士が触れ合って遊ぶところがない。

先日の大雪で箱根町は大変な状況だったが、その中でも仙石原幼児学園、宮城野保育園、湯本幼児学園は開所されたと聞いている。保護者から意見などあったか。子どもたちの現状はどうか。

委員 (仙石原) 子どもたちは園に来て雪遊びをしている。保護者が雪遊び用の服を用意して着て来ている子やそうでない子もいる。

委員 湯本は園庭で遊べる状況。放課後小学生が集まってカードゲームで遊んでいるところを見かける。

委員 (湯小) 子どもたちは校庭で遊んで帰っている。

委員 箱根の森の場合は、バスで通っているためバスの時間に合わせて帰るので、学校に集まって遊ぶことがない。合併の時にバスで通うことになったが、地域の子どもの少ないので、見直しも必要ではないかと感じている。

委員 各地域に児童公園や広場がいくつかあるが、子どもたちが使っていることはないのか。

委員 あまり遊んでいない。地区によっては、同学年がない、同年代がないとなると、遊ぶ度合いが違うので、子どもが多かったころのように放課後遊ぶことができないため、このような回答になるのではないか。

委員 この問題については場所より友達関係の問題の意見だと思う。

小学校から家に帰って、またお金を払って小学校へ遊びに行くのはどうかという懸念があった。本来はスクールバスよりもバス定期券を地域の保護者は要望していたが、難しかったのだと思う。

委員 放課後児童クラブや児童館は、どのような状況で使われているか。

事務局 放課後児童クラブについては町内に3つ小学校があり、その中に1つずつある。

委員 そこに指導員が何名配置されているか。

事務局 放課後児童クラブには2人ずつ配置している。町に児童館はない。

委員 3つの放課後児童クラブは、どのような状況で使用されているか。送迎は？

事務局 学校の構内にあるので、放課後そのまま利用する。迎えは親。バスは使用しない。今年度は箱根の森小学校の「箱根こどもクラブ」の人数が一番少ない。

委員 ニーズ結果の概要をみると、交通の問題ではないかと思う。

土曜日に関しては学校が開校されていく方向になると思うが、授業日数の問題も含め少しずつ増えていけば、その辺りの解消はされるのではないか。

また、先日の大雪のことを考えると、土曜日に余裕をもって開校しておいて、今回のように箱根は1週間休みになってしまうこともあるので備えとして検討することも必要ではないか。

保育園の土曜日に関しては、人員や労働環境など簡単にいかない問題があるかと思う。

事務局 保育園は土曜日開園している。

委員 日曜日はどうか。

事務局 日曜日、祝日は、仙石原幼児学園以外はやっていない。

委員 来年度に策定する計画は、保護者の方の意見が反映できるものにしていきたいと思う。

(2) 箱根町子ども・子育て支援事業計画骨子案について（資料2）

～事務局から資料2についての説明～

・次世代育成計画は、町のすべての子どもとその家庭を対象に、町における子育て、子どもの育ちを支援するための基本的な報告や目標、具体的な取り組みを定めた計画であったが、子ども・子育て支援事業計画は、それに幼児期の学校教育・保育・地域の子育て支援についての需給計画を加えたものになるが、保護者のニーズを踏まえながら策定していきたい。自由意見にあった一時保育の在り方について（現在は3歳児以上）、預かり保育について、認定こども園について（現在は2園）など、今やっていることを見ていただきながら内容を充実していくことやあらたな仕組みも必要かと思う。

委員の皆さんは地域の方々ですし、子育て中なので、計画策定は皆さんの意見を参考に作っていきたい。

～質疑応答・意見交換～

委員 この計画は、子どもの最善の利益が実現されるために、どのようにしたら良いのかといったことだと思う。

実際に第5章の教育保育の提供区域の設定について、保護者と話していると、これだけ子どもが減っていくと、今の小学校や幼児学園が維持できるのかと懸念される声もある。

学校と統合する時に地域から子どもがいなくなるのは寂しいといった声もあった。

常々考えていることは、幼小連携・小中連携といったことを考えると6/6が良いのではないかと考える。3歳から、小学校3年生までの6年間は地元の学校にいて、4年生から中学3年生までを箱根中学に統合するなどの区分けも検討していくことも必要ではないか。今は、小学校高学年になると学校間交流の制度があるため、中学校になった時に子どもたちがすぐ友達になれるような環

境ができています。

箱根に住むことを考えると、住宅地の提供や食材の料金が安いといった問題もあり、町全体の取り組みが必要と考える。

委員 以前あった旅館組合の湯本保育園には町からの補助はでていたか。湯本幼稚園と合併後の経費は？

事務局 町からは運営費の補助を出していた。幼稚園に保育園が加わったことで、開所時間の延長や乳児からの預かりでの人件費、建物的に光熱水費や管理費が増えてかなり経費が増えてしまっている。

委員 旅館組合の保育園の場合、夜の預かりはあったのか。また、旅館組合の子の保育料はどうだったか。

事務局 一時期やっていたが、半年間で100万円の赤字になってしまい、経営的に難しいということになり止めた。また、広い建物で夜間子どもが親を待つというのは、子どもには怖い感じがするようで、夜間預かるなら家庭的建物の方が良いのではないかということであった。また、保育料だが、旅館組合の保育園に預ける場合、組合員は他に預けると比べて安い保育料を設定していた。

委員 夜間保育施設に芸者さんのお子さんは預けるけど、仲居さんのお子さんは費用の問題で預けられないということか。

事務局 今は、直接耳に入ってこない。一般の方からも問い合わせはない。

委員 芸者組合から夜間保育施設に補助は出ているか。

事務局 出ている。

委員 一般の方や仲居さんなどが夜の保育を利用する場合、町として補助が出るか。

事務局 町は、夜間保育施設に少し補助しているが、個々の人にはなかなか難しいと思う。箱根の場合、幼稚園・保育園の料金は他と比較すると安い。小児医療は中学校まで無料。通学のバスについては教育委員会が負担している。早い段階である程度条件としてはかなり高いレベルで保っているが、なかなか箱根町に留まってもらえない現状となっている。

委員 保護者は学力ではなくブランドを求めている。箱根から小田原高校に何人行ったという話になってしまい、子どもたち自身がどうしたいかではないような気がする。あとは塾の問題もある。何か特化的にスポーツが強いであるとか、そういったものがあると、住民の意識も変わるのではないかと思う。他市はどうか。

委員 放課後児童クラブについて、小田原短期大学では「児童厚生委員2級」という遊びの専門課の資格を用意している。地域の大学の事業などと遊びの部分で連携できればと思う。小学生の学習もサポート出来れば良いと思う。

大和市では、民間で遊びの提供事業者がある。

委員 先ほどのニーズ調査に保護者は習い事をさせたいという意見があったが、遊

びと学習のニーズをくみ取って、近隣とうまく連携を取れば良いと思う。

委員（保健福祉事務所） 予防課で精神的な相談を受けている。社会に出てから「うつ」になる人が多い。最近はその頃に失敗して克服することを学んでこない。社会に出て相談に来る。高学歴の方もいる。子ども同士でケンカしてぶつかり合う機会が少ないと感じる。子ども同士でケンカをしたりしながら、子どもの中で解決していくようにしていくのは良い経験と思う。

委員 子ども同士で折り合いをつける力をつけるのも必要。思い通りにならなくても時間をおいて戻ってこられるような園や環境を作りたい。

失敗しても良いことや一生懸命頑張ることが大事ということ子どもに教えたい。

委員 自分で解決していく力を身につけることが必要。なるべく縦割りの活動を。

委員 困難を自分で乗り越えられるようになってほしい。

委員 放課後児童クラブについては、様子を見てみると、1年生～3年生までいてとても良い環境だと思う。しっかり体を動かしているし、宿題もしている。4年生以上の高学年についても、教師は対応しかねるが教室は空いているので、運動をする、家庭学習をするといった仲間がいると良いのではないかと思う。家での時間を有効に使えていない子が沢山いるので、今後高学年の放課後の良い時間の使い方を検討していきたい。

事務局 マロニエは委託で運営しているのか。

委員 委託事業で、小田原短期大学が請け負っている。未就学児の子育てサービスを本学の事業として運営している。

事務局 放課後児童クラブの現状は、小学校によって部屋のスペースが異なる。

4・5年生になると、親が帰って来なくても一人で留守番できることを想定して今は、3年生までとなっている。春、夏、冬休みなど長期休暇は空きがあれば高学年の子どもも受けている。

しかし、今後法律が変わって6年生までになると、スペースも考えてあげないといけない。本来は看護師なども揃えていかなければという問題もある。今回の調査の中で、高学年も利用したいというニーズがあれば対応していきたい。

計画策定は、たぶんこうだと思いますではなく、これだけのものがあるから行きましようというもので決定していきたい。

委員 高学年では学習の場を求めていると思う。

湯本幼稚園が湯本小学校を間借りしていた時期がある。上の子が下の子の面倒をみるととても良い環境だった。

保護者が求めている保育園は、長時間預かってほしいという声が多い。

委員 箱根幼稚園に預かり保育はあるのか。温泉幼稚園にもあるが日数が少ない。

預かり保育が毎日あるのなら、夏休みも毎日預かってほしい。

事務局 箱根幼稚園にはある。毎日ではないが、要望があれば預かる方向だが、教諭の数もあるので調整が必要。

委員 箱根は親が夜遅くまで勤めているのでアフタースクールを充実させたい。

事務局 アフタースクールは、単なる習い事ではなく、読み書きそろばんのような塾的な要素を想定していると思うが。

委員 有名な塾は、小田原までいかないもない。習い事については、湯本などは、そろばん・書道は公民館を借りて安価で教えている。

箱根町は、子育てに関しては制度が充実しているし、教育委員会も協力してくれるなか、子どもたちは穏やかに育っている。あとは、学力・体力の面の援助があれば、箱根で子育ての安心感が生まれると思う。

今まで出た意見等を含めながら策定を進めていただきたい。

(3) 箱根町子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」の算出について（資料3）

～事務局から資料3についての説明～

～意見交換～

委員 小田原保健福祉事務所では、不妊治療の窓口で悩み相談を受けている。妊娠を望む女性は、家庭でも言えない悩みを抱えている。

また、発達専門相談については、小児科の医師を招いて相談に乗っているので、是非活用していただきたい。

委員 児童相談所では虐待の対応だけではなく、発達の相談窓口もある。保育園・幼稚園・小学校低学年の、集団に入れにくい子・落ち着きがないなどの子どもについて心理専門の職員がお子さんの状態を見させていただいて、親の相談に乗っている。

他に子育て応援も行っている。より良い子育ての仕方を教えている。親に子育てに自信を持ってもらい、何か起こる前の対処方法や未然防止について学んでもらう。

延長保育についても量と質を高めていくことが、より良い子育て環境に繋がっていくと思うので新制度に期待している。

委員 箱根町には相談の窓口が色々ある。小さな町だと、きめ細やかなサービスができる反面、相談しに役場に入っていくだけで噂になるのではという心配もあり、なかなか本音が出ないなど、利用しづらいこともある。その点について利用しやすい間口の整備も必要と考える。

(4) その他

事務局 次回会議については、7月を予定している。

会 長 以上で議題を終了する。

4 閉会

～副会長より挨拶～

貴重な意見が多数あったので、これを踏まえて、ニーズ調査の結果や少子化等の課題検討をし、来年度はさらに具体的なところを話し合っ子どもたちが育つ環境、子育てしやすい環境を行政だけでなく地域で支援できるシステムを考えていく。これからよろしく願いしたい。

以上